

日本人大学生における日本語の 文章理解と語彙力の関係

田島ますみ(中央学院大学)、佐藤尚子(千葉大学)、松下達彦(東京大学)
笹尾洋介(京都大学)、橋本美香(川崎医科大学)

日本リメディアル教育学会 第11回九州・沖縄支部会大会
沖縄産業支援センター 2019年11月23日(土)

はじめに

- 高等教育における日本語母語話者を対象とした日本語指導

「文章表現」などの科目で主に書くことに焦点が当てられてきた

あるいは日本語科目やゼミなどで「口頭発表」の練習として話すことも指導がある

→ いずれも日本語の産出技能（書く・話す）

産出された文章や発話があるので、指導・評価は比較的しやすい

教材なども開発され、学部基礎科目として定着

- 受容技能（読む・聴く）

高等教育レベルで日本語母語話者に読解、聴解に関する指導はまだほとんどなされていないのではないだろうか。

読解力

- 大学生の読解力の諸問題
 - 日本人の読解力の問題
 - 読書量の低下
 - 国語教育における読書指導の少なさ
 - 「読めない」から「書けない」のではないか
- 日本語母語の大学生への「読むこと」の指導？
 - 外国語教育では読解のために語彙力を伸ばそうとする
 - 母語での有効性は？
 - 定量的調査研究の必要性

調査方法

- 読解テストと語彙テストを日本語を母語とする大学生に実施し、結果を分析する
- 読解テスト
 - 公務員試験（大卒程度）の教養試験で出題された「文章理解（現代文）」の問題
論説文（547～984字）を読んで、内容・要旨に合致する選択肢を選ぶ
 - 5肢択一
 - 内容把握 3問 要旨把握 3問 計6問
- 語彙テスト
 - 学術共通語彙テストVersion 2.2
 - 学術的なテキストにおいて使用頻度が高い語彙（一般語彙と専門語彙の中間）
 - 語義を問う3肢択一 75問

読解テスト問題例

問1 次の文章の要旨として、最も適当なものを①～⑤から選び、記号で答えなさい。

そもそも、本格的な数の概念は、数を書いたり表現したりすることから始まったのだろう。だから、それは文字の使用と密接な関係にあったはずだ。そして、数を使って計算する行為も、これとほとんど同時に始められただろうと思われる。もちろん、このようなことは憶測にすぎないのであるが、数という概念を抽象し表現するそもそもの動因が、計算することにあつたと考えるのは自然なことだ。

数の概念は、個数や量、長さといった自然界の事物事象の属性を、それら事物事象からいったん離れて抽象化したものである。今でも我々は、数をいったん自然から離れて抽象的な記号として計算し、得られた結果を再び自然界の事物事象に適用するという行為を、普段から全く普通に行っている。スーパーマーケットでは、レジが計算して数字という記号で表示してきた金額を、我々は支払っているのだ。実際に計算しているレジにとっては、購入した商品がなんなのかということは全く関係ない。ただ、抽象的な数だけが問題とされている。

実際の商品が何であるかといったことは完全に忘れ去り、その個数や値段という、非常に限られた属性のみを問題とすること。このような、言わば「意図的な健忘」が、抽象化の裏には必ずある。そして、この意図的ということに高い精神活動の一端が垣間見えるわけだ。

- ① 人間にとっては、数をいったん自然から離れた抽象的な記号として計算することは普段から全く普通に行っている行為だが、スーパーマーケットのレジのような機械でそれを行おうとすると容易ではない。
- ② 数の概念は、個数や量、長さなどの事物事象の属性を抽象化したもので、その動因は計算することにあつたと考えられ、抽象化の裏にある「意図的な健忘」の、意図的という点に高い精神活動の一端が垣間見える。
- ③ スーパーマーケットでは、レジが計算して数字という記号で表示してきた金額を、我々が頭の中で無意識に抽象化してから支払っているので、買い物をする人にとっては、支払う金額と購入した商品が何なのかということは全く関係がない。
- ④ 商品の個数や値段という、非常に限られた属性のみを問題とすることは、抽象化にとって必要なことだが、それとは別に、抽象化の障害となる「意図的な健忘」も、抽象化の裏では必ず起こっている。
- ⑤ 人間は、数の概念を獲得することによって、数を書いたり表現することができるようになり、そこから文字が生まれ、やがては数の概念を使用して計算をすることができるようになったと考えられる。

語彙テスト問題例

帰結：^{ひと}一つの帰結である。

- 1) 行ったり来たりする^{かんけい}関係
- 2) ^{さいご}最後にまとまった^{かんが}考えや^{じょうたい}状態
- 3) ^{はじ}初めに^で出てきた^{もんだい}問題

実施概要

- 2大学の1年生を主な対象として、2018年4月に授業時間内で実施
国立大学Aでは読解・語彙テスト、同日 私立大学Bでは別日
時間:各テスト30分
問題冊子を印刷して配付、解答はマークシートに記入
- 217名のテストスコアが得られた。
1年生210名 2年生6名 4年生1名

結果

表1 テスト結果基本統計量

	語彙テスト	読解テスト	要旨把握	内容把握
満点	75	6	3	3
平均点	62.83	3.92	1.91	2.01
標準偏差	14.05	1.62	0.93	1.01
最高点	75	6	3	3
最低点	22	0	0	0

結果

表2 語彙テスト成績グループ別読解テスト結果

		度数	平均	標準偏差	最小	最大
読解テスト 合計	1	91	4.79	.98	2	6
	2	66	3.83	1.69	0	6
	3	31	2.74	1.29	0	5
	4	29	2.66	1.78	0	6
	合計	217	3.92	1.62	0	6
読解テスト 要旨把握問題	1	91	2.29	.73	0	3
	2	66	1.95	.92	0	3
	3	31	1.29	.82	0	3
	4	29	1.28	1.00	0	3
	合計	217	1.91	.93	0	3
読解テスト 内容把握問題	1	91	2.51	.66	1	3
	2	66	1.88	1.07	0	3
	3	31	1.45	.96	0	3
	4	29	1.38	1.08	0	3
	合計	217	2.01	1.01	0	3

Group	範囲
1	71点以上
2	61点~70点
3	51点~60点
4	50点以下

結果

グループ別読解テスト平均点

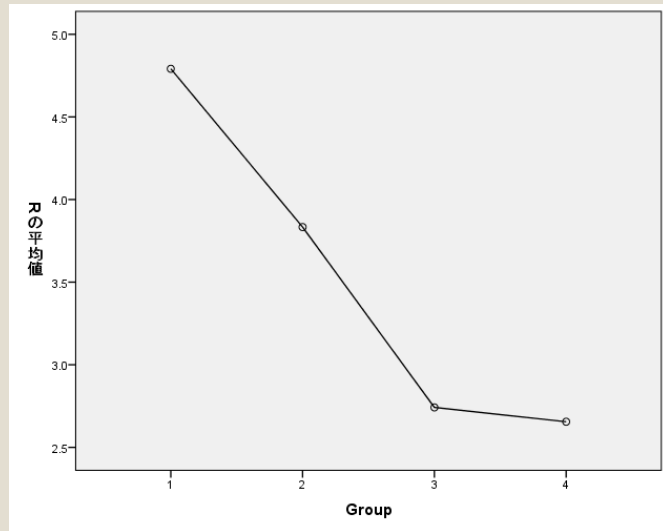


図1:グループ別読解テスト
合計点の平均点

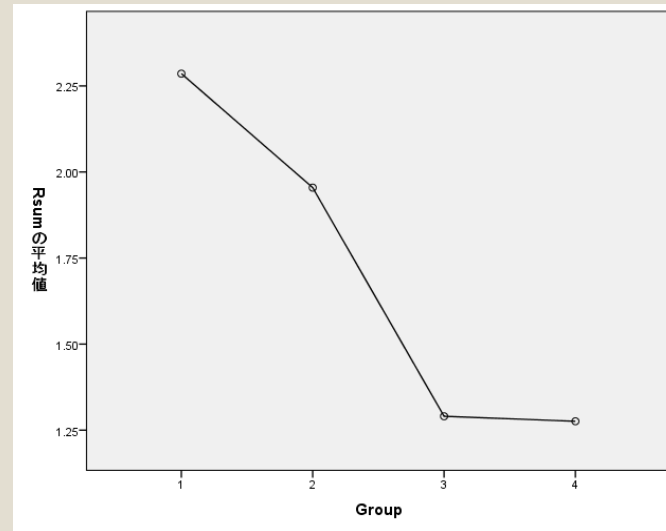


図2:グループ別読解テスト
要旨把握問題の平均点

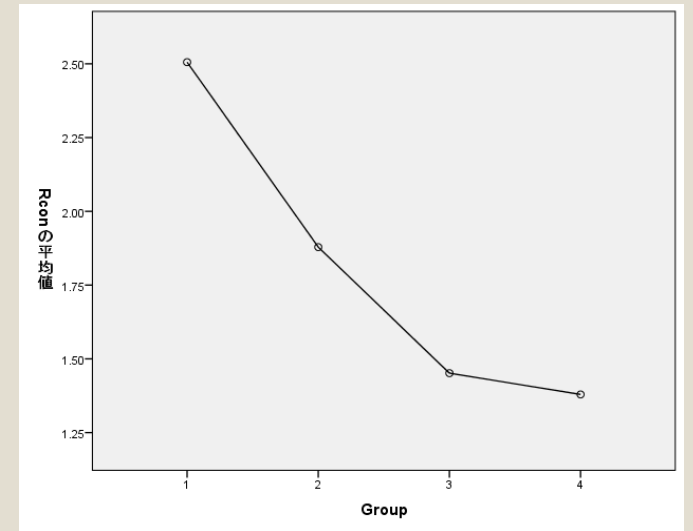


図3:グループ別読解テスト
内容把握問題の平均点

参考：小・中学・大学生語彙テスト結果

表1 日本語学術共通語彙テスト Ver. 2 の基礎統計量

	データ数	平均	標準偏差	最大	最小
小4	622	27.9	12.9	62	0
小5	622	35.7	12.7	65	0
小6	630	42.1	12.5	72	0
小学校計	1874	35.3	14.0	72	0
中1	576	45.7	11.2	69	5
中2	605	51.5	10.6	71	0
中3	571	54.5	9.6	73	0
中学校計	1752	50.5	11.1	73	0
大学A	327	60.0	7.4	72	27
大学B	69	70.6	2.9	75	61

結果

表3 語彙力と読解力の相関

	語彙テスト	読解テスト (合計点)	読解テスト (要旨把握)
読解テスト (合計点)	.466**		
読解テスト (要旨把握)	.331**	.823**	
読解テスト (内容把握)	.446**	.850**	.400**

** : 相関係数は 1% 水準で有意

結果

読解テストと語彙テストの相関 .466

猪原敬介, 上田紋佳, 塩谷京子, 小山内秀和 (2013)

小学生における読解力と語彙力の関係

1・2年生: $r=.79$ 3・4年生: $r=.70$ 5・6年生: $r=.66$

第二言語での調査でも、能力レベルが上がるにつれて、相関は弱くなる

レベルが低いほうが読解と語彙の関係は強い

→ 読むものの難易度が上がってくるにつれて、読解への語彙の関与の値は小さくなる

母語話者の大学生への語彙指導の効果はある程度限定的にはなる

結果

- 内容把握の問題と語彙テストの相関 $r=.446$
要旨把握の問題と語彙テストの相関 $r=.331$
- 内容把握問題平均点:2.01 要旨把握問題平均点:1.91
要旨把握で点が低い
- 正答率70%未満の項目:「しばしば」「耕作」「教示」「コマンド」「編著」「るつぼ」「拙稿」「耐用」
- 李・山方(2019)
大学生の読解の問題点
「包括的な読解ができていない傾向」

まとめ

- 読解力と語彙力に一定の相関

母語話者の大学生の読解指導では語彙以外の力の影響も考慮すべき

- 内容把握と要旨把握

語彙との関係は要旨のほうが弱い可能性がある

- 学術共通語彙テストで8割程度の力があると公務員試験に出るような論説文の読解ができるようになる

8割以下であると「歯が立たない」

8割：国立大大学生では下回らない

閾値？

参考文献

- 1) 松下達彦: 日本語の学術共通語彙 (アカデミック・ワード) の抽出と妥当性の検証, 日本語教育学会春季大会予稿集, 2011, p.244-249.
- 2) 日本語学術共通語彙リストVer.1.01 (2011):
<http://www17408ui.sakura.ne.jp/tatsum/list.html> (2019年11月8日参照)
- 3) 田島ますみ, 佐藤尚子, 橋本美香, 松下達彦, 笹尾洋介: 日本語学術共通語彙テストの開発, 中央学院大学人間・自然論叢, 2018, 45号, p.19-31.
- 4) 田島ますみ, 佐藤尚子, 松下達彦, 笹尾洋介, 橋本美香 (2017): 日本語学術共通語彙知識の発達 (義務教育課程と高等教育課程での習得状況の比較), 日本リメディアル教育学会第13回全国大会発表予稿集, p.140-141.
- 5) 猪原敬介, 上田紋佳, 塩谷京子, 小山内秀和: 日本人小学生児童における読書量・語彙力・読解力の関係 (1), 日本教育心理学会総会発表論文集, 2013, 55, p.143.
- 6) 李榮, 山形純子: 大学生による日本語読解の困難点 (筆記再生文の質的分析から), 日本リメディアル教育学会第15回全国大会発表予稿集, 2019, p.96-97.

ご清聴ありがとうございました。

本研究はJSPS科研費JP15K02631の助成を受けています。